

## 3D浚渫管理システムの見学会を実施しました

あおみ建設株式会社（代表取締役社長：河邊知之）は、あおみ・堀松・白崎経常建設共同企業体の「釧路港－14m航路泊地浚渫工事」で運用している「3D浚渫管理システム」の見学会を、11月3日に発注者である北海道開発局釧路開発建設局を対象として実施しました。参加者は釧路港湾事務所の佐藤浩彰副所長他9名で、システムの機能や現在のICTの活用状況について多くの質問が寄せられ、充実した見学会となりました。なお、本工事は「ICTを活用した施工」を含めたICT活用モデル工事の対象工事になっております。

本システムは、現在、国土交通省が取り組んでいるICT活用工事（浚渫工）に対応するもので、本工事においては、マルチビーム測深による3次元起工測量データを取り込んで、グラブバケットの位置と目標浚渫位置をリアルタイムに可視化しながら施工を行い、施工の効率化、労働生産性の向上を図りました。



写真-1 システムの現場見学状況



写真-2 システムの説明状況

### 【システム概要および機能】

本システムは、起工測量データを取り込むことによって、浚渫作業の完了箇所と未完了箇所を可視化でき、掘り残しによる手戻りを最小限に抑えることで、施工の効率化に役立つ機能を有しております。さらに、土量計算の自動化や進捗図の作成機能により、現場の生産性向上に貢献できるICT活用工事に適したシステムです。具体的な機能は以下のとおりです。

- ・起工測量データ（3次元の海底地形データ）を取り込み表示する機能
- ・グラブ浚渫船のバケットの位置（平面・深度）をリアルタイムに3Dで可視化する機能。
- ・浚渫作業の進捗に応じて、起工測量データが浚渫した地盤高さに置き換わる機能。
- ・水中ソナーで測定した地盤高さデータを浚渫した地盤高さに反映する機能。

（以上、図-1 参照）

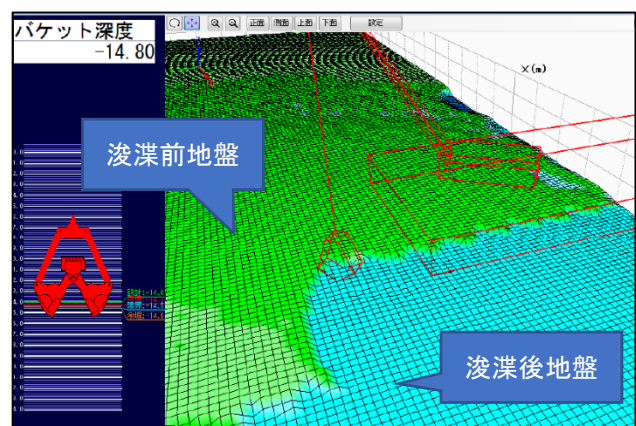


図-1 システムのメイン作業画面

